

慶応二年六月四日より慶応二年六月八日まで

P8310598 right

右仏国書翰を廻し此英ロコック出府の義等申遣す、富沢叔母割烹品一小重持参一昨

二日の謝意なり酒飯を勧む、金川（神奈川）より昨日和春出府の旨御用状にて申来る

五日 辰 雨

本日も猶又頼合う、坂地前田（右）より雁書届く、□原田（昇）の義頼越す、此事金川よりの御用状御関へ為持差出す、山本（長）来り、山本（次郎）への届け書類を托せらる、保三来る、明日駒込の方へ

引移る旨、五郎次来り小品持参、何れも午餐を設く、正覚稽古に来る

六日 巳 雨午下断続

保三来り本日引移り□相延旨、松盛斎稽古に来る、本日出勤出 殿、礪川より

鮎一籠贈り来りし旨、深津（弥）訪病に来りし旨、

P8310598left

七日 午 晴雲午下雷気曇（通り雨）雨一過

太郎歙藤三兒へ四婢両士を随へ墨陀邸へ行かしむ、舟行也、松盛斎へ借用の花瓶（二）を返し目障

扇（二）を贈り遣し、且つ金港へ問い合わせしポンプ一式の代料書付を為持遣す、須崎へ過日貸遣せし銚子其外

とも返し、蒸菓子一折を贈り越す、出 殿、英ロコック其外多人数出府に付宿寺詰より調役出張の義、

申来りしに付□栄助方へ達す、

八日 未（夜土用入）雨意漸薄晴

柳亭稽古に来る、出 殿、長州表急御討入の御模様有之趣□聞す、物価騰貴に付

江戸町本所、芝、品川、千住其の外所々町家打毀乱妨の徒徘徊の趣この日、頗に風説有之、町方同心と酒井廻り方（元新徴組）争闘一件の変事等相生ず、

（内は細字双行二行に小さい文字で二行書きなどの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。